

第 7 期宇治市生涯学習審議会 会議録

名 称	第 7 期宇治市生涯学習審議会 第 10 回審議会						
日 時	平成 28 年 12 月 16 日 (金) 午後 3 時 ~ 5 時						
場 所	生涯学習センター 2 階 一般研修室						
出席者	委員	○	岩井 浩	○	小宮山 恭子	○	西山 正一
		○	内田 徹	○	佐藤 るり子	○	林 みその
			奥西 隆三	○	清水 桂子	○	向山 ひろ子
		○	木村 孝	×	杉本 厚夫	○	森川 知史
		×	切明 友子	×	長積 仁	○	六嶋 由美子
	事務局	○	藤原 千鶴 (教育部参事(兼)生涯学習課長(兼)生涯学習センター所長)				
		×	瀬野 克幸 (教育支援センター長)				
		×	富治林 順哉 (教育支援課長)				
		○	今莊 真樹 (生涯学習課副課長)				
		○	前田 暢 (生涯学習課主幹兼生涯スポーツ係長)				
		○	高橋 紀子 (生涯学習課事業係長 (兼) 生涯学習センター主査)				
		○	野口 里佳 (生涯学習課生涯学習係長)				
		○	粕谷 祐次 (生涯学習課生涯学習係主任)				
		○	太田 悠 (生涯学習課生涯学習係主任)				
傍聴者	なし						

会議要旨は、下記のとおりである。

• 第 9 回審議会の会議録について

前回の会議録について、以下のとおり修正があったため報告。

会議録 4 ページ上から 8 行目

- ×訂正前：前半の講演で、京都府のアンケート調査では中高生の 1% が違法薬物を経験し、他の調査では中高生の 70% がスマートフォンを持っているという話を聞いた。また個人化の話聞いて驚いた。後半のシンポジウムでは、
- 訂正後：前半の講演で、京都府のアンケート調査では高校生の 1% が違法薬物を勧められた経験があり、他の調査では中学生の 70% がスマートフォン・携帯電話を持ち、そのうち 90% がインターネットに接続しているという話を聞いた。また後半の森川委員長の講演では、個人化がどんどん進んでいると聞いて驚いた。シンポジウムでは、

1. 報告事項

➤ 第 58 回全国社会教育研究大会(千葉大会)について

(事務局)

平成 28 年 10 月 27 日(木)、28 日(金)千葉県で開催された。一日目は、「社会に役立つ人づくり」という演題で株式会社オリエンタルランドの執行役員金木有一氏による基調講演があり、ディズニーランドの取り組みや、育成などについて話されていた。続くシンポジウムでは、地域活動をされている 3 名のシンポジストの話があった。二日目は分科会が開催された。第 1 分科会「学校教育支援の推進」では、実践発表の後、5,6 名のグループに分かれてのワークがあった。全国の場でのこういう試みは初めてだった。様々な地域の方がおられ、社会教育委員・行政職員、都市部・農村地など、立場や状況に違いがあった。

(委員)

千葉県知事の話は楽しみにしていたが、以前と同じように、原稿なしのスピーチだった。第 4 分科会「社会教育委員の役割～人づくり・まちづくりを進める社会教育委員の役割(入門編)～」に参加した。入門編とあって、最後には助言者から社会教育支援の沿革の話があった。事例発表は鹿児島県霧島市と長野県岡谷市のものだった。霧島市では年 3 回の会議に情報交換会を始め、制服バンクを始めた。岡谷市は人口 5 万人で、10 名の社会教育委員は、校長会から 1 名、9 つの小校区から 1 名ずつ出ており、会議の他、年 2 回の懇談会をしている。岡谷美術館をテーマにしていた。グループごとのワークでは、静岡県牧之原市の委員長、福岡県小郡市、東京都武蔵野市、千葉県からの参加者と私の 5 名であった。武蔵野市の方が、自分が中心となって社会教育委員の活動報告を発信していくと話していたのは印象的だった。牧之原市の委員長はじめ皆が、社会教育委員の役割は行政とのパイプ役であるだろうと話していた。その通りだが、宇治市は今期、一歩進めて、動く社会教育委員でありたいと話したが、あまり理解はしてもらえなくて残念だった。

(委員長)

知事の話は、社会教育委員の活動に敬意を表するというものだった。オリエンタルランドの話はあまり新しい発見はなかった。シンポジウムで感じたことは、よく話す人がいるとまとまらないということだった。シンポジストがそれぞれ面白い話をしていたので、彼らにたくさん話してもらおうというのも良かったのではないかと思った。私は第 2 分科会「家庭教育支援の充実」に参加した。ワークでは、私のグループは良かったが、メンバーにより当たり外れがあるだろうと思った。参加するだけで、全国大会に来た意味はあるものだと思うが、やり方についてはいろいろ考えないといけない部分はある。

➤ 平成 28 年度京都府社会教育研究大会(長岡京市)について

(事務局)

平成 28 年 11 月 22 日(金)長岡京市立中央公民館で開催された。京都府健康福祉部長松村淳子氏による、「今どきの子ども事情～子どもを育む地域へかえるために～」と題した

講演があり、午後からは「今、社会教育委員に求められるもの」というパネルディスカッションが開催された。パネルディスカッションのコーディネーターをされた森川委員長をはじめ、7名の委員の参加があった。

(委員)

講演は、小児科の医師をしていたという講師によるものだった。ハラスメントの種類は身体的暴力、ネグレクト、言葉の暴力、性的虐待と4種類に分けられるとのこと。以前、尾木直樹氏の講演を聞いた時に、京都府では、未然に防いだ件数も含んで数字を出しているので、他府県より大きい数字が出ると話していた。虐待の話では、私が子どもに持っているものとは違う感情を持っている人がいるのだなと思った。大人になれていない親が増えていて、彼らを大人にしないと子どもの虐待は減らないのだろうと感じた。実は私は、長岡京市のすすく教室のお手伝いをしているのだが、予算もしっかり市から出ており、メンバーの裁量も広い。コマ回しや詩吟など、特技を持った近所の方をよく調査し、講師として呼んでいる。何回か行ってみると、子ども達が家のことを話してくれるようになり、その子らの状況が分かってくる。パネルディスカッションでは、福知山、京丹後、南丹の方がいて、それぞれ特色があった。福知山では「子どもから学ぶ、大人が学ぶ、高齢者に学ぶ」という、短いフレーズに多くの意味が込められているスローガンを掲げており、京丹後でははぐくみフェスティバルの開催などを紹介しており、有意義な時間を過ごせた。

(委員)

京都府の研修会には初めて行ったが、京都市は別に開催していることを知った。市町によって参加人数にばらつきがあることも感じた。それは予算の多寡だと聞き、なるほどと思った。講演を聞いた時に、感想としては、我々は終戦後生まれだが、どっと子供が増え、貧しい中で育ってきたが、今は充実した社会に生きながら、非常に生きにくい社会に、子ども達は生きているのだなと感じた。結局大人の責任なのだが、学校の登下校などの様子ではあまり感じなかったが、裏にはこういう状況があることを知った。昔と違うのは、今は離婚率が高く、離婚の際に子どもは母親についていくことが多いが、両親の愛を知らない子どもが増えているということ。昔は貧乏であっても、女性が辛抱強かったが、今は女性の地位も上がって、収入もあり、子どもを連れていく人も多い。それに比べて男が力をなくしているのかなと思った。

➤ 平成 28 年度宇治市子どもの読書活動推進事業について

(事務局)

平成 28 年 11 月 26 日(土)中央公民館展示集会室にて、幼児から小学校低学年を対象に、平成 28 年度宇治市子どもの読書活動推進事業「おはなし会&お気に入りの本に出会おう!」を開催した。子どもの定員 50 名で事前申込制にした結果、当日は子ども 46 人、保護者 27 人、計 26 組 73 人の親子の参加があった。イベントの内容は、前半は学校司書と図書館職員による、大型絵本や大型紙芝居の読み聞かせ、後半は図書館でリサイクル本となった絵本や児童書を、一人一冊選んでもらってプレゼントするというものだった。

宇治市では、宇治市子どもの読書活動推進委員会を中心に、「子どもの読書活動推進計画(第二次推進計画)」が平成24年度から平成33年度までとなっている。5年目である今年度中に前半の成果を総括し、後半の方針を検討するため、現在、事務局で各課の取組状況調査を行っている。今後、調査結果をまとめて、当審議会にて報告をする予定である。

➤ **生涯学習関連事業調査について**

(事務局)

今年度、平成27年度事業自己点検調査を行った。対象となる事業は合計256件であった。社会還元の有無については、昨年度より該当する事業の割合が上がった。数値と記述の評価結果については、昨年度とほぼ同じ状況であった。二次調査では、一次調査で報告された事業から、原課にヒアリングを行った。今回は、文化自治振興課の「町内会・自治会長交流会」、生涯学習センターの「宇治まなびんぐ」、学校教育課の「図書館ボランティア養成講座」を取り上げた。調査により、庁内の多くの部署で、市民の学びの場を作る事業が実施されていることが把握できる。今後も、「生涯学習」「社会還元」の意識が全庁的に広がり、市民の学びの推進、まちづくりに貢献できることを目指している。

(委員長)

山城地方社会教育委員連絡協議会の理事会でも話していたが、生涯学習が進められていた頃はこういう調査のように、生涯学習の事業をどんどん推進していけば良かったが、今は状況が変わってきていて、同じことをしてはいけない。啓発にしても、何を学ぶべきなのかを、しっかり我々も考えていかないといけないと感じている。

2. 協議事項

➤ **今期のテーマについて**

(委員長)

今期は全委員による各自の活動や研究について発表を行ってきた。報告書にまず今期の取組みとしてこの内容を掲載したい。

(事務局)

各委員には、1月中旬をめぐりに、今期発表した内容をA4半分程度にまとめてきていただきたい。画像の添付やボリュームについては各自相談いただきたい。

(委員長)

その上で、報告書の後半の提言の部分を考えていきたい。今期ここで各委員の発表を聞かせてもらって、この場で終えてしまうのはもったいないと思った。私の案は、できれば来期以降、全委員とはいかなくても我々が講師として、市民を集めた機会で講座を開いてみてはどうかと思う。まずは社会教育委員、生涯学習審議会委員がどういうものか、各自の活動の内容や、現在直面している様々な問題を知ってもらいたい。

(委員)

私としては、普段自分でやっている活動を、社会教育にどう結び付けてまとめれば良いかがわからない。

(委員長)

我々が社会教育委員としてすべきことは実践よりも、ここで議論をし、その内容を教育長に提言することだと思う。ただ、それだけでは市民との距離が離れてしまい、何を学ぶべきなのかが伝わらないので、我々の活動を知ってもらうことから始めたいと思う。

(事務局)

生涯学習審議会が社会教育委員会であった頃、公民館運営審議会と一緒に実行委員会を作って、市民の学習の場を作るためにまなびんぐを始めた。やがて、市民に実行委員会を託し、自主的に運営することになり、今日に至る。

(委員)

当審議会は公費で開催されているので、我々自身が学ぶだけではなく、市民に何らかの形で還元すべきだと思う。私は、委員長の案は進めていくべき方向だと思う。

(委員)

我々の議論は地域性のものだが、市全体に向けて発表することで、他地域にも参考となり広がってくれればいい。まなびんぐは毎年多くの人を訪れる大きな催しなので、この場から始まったことは大きいと思う。

(委員長)

例えば、まなびんぐに我々のコーナーを設けるのもいい。事務局との調整が必要だが。

(委員)

選挙管理委員会の選挙推進の活動で、福祉まつりにおいて、実際に使う投票箱を用意して、好きな動物などを投票し、景品を出すなどしていた。こういう啓発活動にも関わらず、先日の宇治市長選挙は、投票率が低くて残念だった。民主主義の根幹として重要なことだと思うので、各種団体を通じて広がっていけばと思う。委員長の案のようなことを我々で実践し、まずは広く知ってもらうこと、また、それを機に影響を受けた人が、活動を広めてくれることになれば嬉しい。

(委員長)

私は話すことしか思い浮かばなかったが、社会教育委員としてどういう方法での発信が可能なのかを議論していければいいと思う。

(委員)

以前テレビで見たが、あるイベント開催の際に、ゴミ箱の上にバスケットゴールを置くことによって、ゴミが落ちていなかったという。大学の教授などが関わって考え出していたが、ゲーム性があるなど、仕掛け作りは必要だと思った。

(委員)

私は公民館に力を入れたいと思っている。青少年健全育成協議会(以下、青少協)や各団体に属しているが、それぞれは頑張っているが、協力するとか、地域の問題を見つけていく議論がない。地域の公民館で市民を集めての講座ができなければ、そういう団体向けでも、ワークの場を設けて何ができるかを議論する機会にしたい。

(委員長)

提案をいただく場を作っても良い。そこから何ができるかを議論し、コーディネートを始めきっかけづくりになれば。

(委員)

私も青少協の活動で、地域の人、学校の先生と生徒とが関わってまつりを開催している。その中で見えてきたことだが、各団体は目標に向かって頑張っているが、団体同士のつながりがない。活動を広げていこうとすると、団体をつなぐコーディネーターが必要になる。

(委員長)

その役割を社会教育委員ができればと思う。人を巻き込むことが我々の仕事。子どもを呼べば親や親戚がやってくる。人を集める装置はたくさんある。発信をしなければいけないという思いは以前から感じていた。

(委員)

横のつながりでいうと、公民館には公民館サークル連絡協議会、コミュニティセンター(以下、コミセン)には推進協議会があり、各方面で動くことはできると思う。公民館まつりなど時期でつながることはできるが、恒常的ではない。だが動ける基盤はある。

(委員)

私の地域では、コミセンに来てもらうため、数年前からコミセンが出前講座のように学校行事に出向いている。子どもが来たら、親や祖父母も来るので来所者が広がっていける。

(委員長)

今どういう問題が起こっているかなど、当審議会では共有できているが、気が付いていない人がたくさんいる。気が付けば何かできることで動いてくれるかもしれないので、まずは広く発信したい。

(委員)

人が集まる場ということで、私は学校現場にいるが、年間行事で地域の人に学校に来てもらっている。全戸に案内し、子や孫が通学していなくても、地域の人に子ども達の様子、発表などを見に来てもらい、昼食も一緒に摂っている。地域の子どもが地域で育まれる。笠取校区は温かい状況にあるが、これを続けていくことが重要だと思っている。

(委員)

学校でも秋と冬に左義長を行い、地域の各団体が参加している。笠取地域は特殊だが、他の 20 校区でも同じようなことをしているはず。先日の宇治市長選挙では、笠取地域でも投票率が落ちて、以前は 70%ほどあったが、40%を切っていた。地域のコミュニティが徐々に変わってきていると思った。

(委員)

集会所で投票しているが、立会人も地域の方で知り合いどうしなので、目であいさつをしている様子を見かける。先日の京都府社会教育研究大会で、まちの農村化の話があり、私もまちから笠取に行った身であるが、村で昔からやっていることが温かいと感じる。まちの農村化が進めば、こういうことが村からまちに入っていくのではないかと感じた。

(委員)

前回の委員長の話で、公民館を活用して自立した市民を作ることにつなげたいとあったが、どういうことか考えていた。この前たまたま、図書館関係のつどいで紹介されたもので、守口市で公民館講座に集まった自主的な活動によって自治体の財政を調べた「守口市 財政白書」という冊子を読んだ。守口市には図書館のような施設があり、市の図書館の位置づけがあいまいなようだ。まだじっくり読んでいないが、公民館の活動からこういう問題意識を持って、立派な装丁の報告書を作成したということがすごい。今は情報開示制度もあるので、自分が住んでいる地域のことを学び、考える市民になるきっかけになればいいと思う。

(委員長)

それをまとめるための講座ではなかったのに自主的に作成したのか。

(委員)

守口中央公民館の「地方財政入門講座」とのこと。行政は関わっていないようだ。政治色はなさそう。受講者 10 人程度が自主的に集まって、一年間調べたものが冊子になっている。先ほど投票率の話が出たが、市の財政について、自分の好きな分野からでも、例えば図書館についてなど、他の同規模の市町村ではどう使われているのかなど、少しでも自分の地域のことを考えることができれば投票率も上がるのかなと思う。また、今は単発のイベントに人が集まる。計画する側は頑張っているが、市民はあちこち回るものの、参加

に留まり、景品が良かったかなどの感想で終わってしまう。

(委員長)

自立して活動する市民を育てることができれば理想的だ。大阪という土地は、大阪大学も市民が作ったように、もともと市民の意識が違うところがあるのかもしれない。大津市には市民活動センターがあり、関わってきたが、今は活動する市民をどう作っていくかの方向にシフトしてきているようだ。

(事務局)

公民館は市町によって活動のカラーが違う。主催事業でなく、市民が自主的に集まって、勉強や趣味をしているところもある。

(委員)

今は餅つき大会が地域でできなくなっている。ノロウィルスや食中毒など、衛生面で厳しくなっている。このままではボランティア活動もできなくなってしまう。

(委員)

私の地域の左義長ではぜんざいを作っているが、餅から白玉粉にしようという意見が出ている。近所の施設の祭りでも餅つきをやめることになった。

(委員)

左義長で灰が飛んできて、弁償してくれと声があがるという。学校にクレームが入るといふ。昔から楽しんできたのに、孫の世代で止めてしまうのはいかなものか。

(委員)

除夜の鐘がうるさいという声も挙がっているとか。

(委員)

マンションからの苦情もある。江戸時代からの慣習なのだが。うちの事業所では、しっかり法的基準にも則って、安全対策もしてきたのだが、結局やめてしまった。費用面の問題もあるらしい。

(委員)

宇治川マラソンでも、異議申し立てがあって、家の前を走路にされると急病人が出た時にどうするのかと、強い口調で言うてくるのがあった。これまで家がなかったところで、他に良いコースもないため、なんとか納得してもらったが。

(委員)

保健所がいうには、その日のうちに作って食べないとダメ。どうしても準備が必要なので前日にある程度したいのだが、前日に作ったものは出してはいけないとのことだった。

(委員)

地域の神社では屋根の修復に数億円かかったが、地域の集まりで、ある人は宮司さんに「これからは神社もメリット・デメリットを考える時代だ」と言っていた。お守りのようなものだと思うのだが。地域で使われている言葉「おかげさんで」「穏やかに」「いい言葉だ」と思う。東北のなまはげの催しも、子どもがトラウマになるというので、寄り添って勉強を教えるところが出ているという。怖いものは怖いもので残したらいいと思うのだが。規制されたら何もできなくなる。今は様々なクレームが入るので主催者は大変だ。

➤ 平成 28 年度山城地方社会教育委員連絡協議会研修会について

(事務局)

平成 29 年 1 月 20 日(金)精華町むくのきセンターにて開催される。今回宇治市は分科会での課題提起に当たっている。本来ここで議論してからであるべきだったが、期限の関係で先に書類を出し、第 1 分科会で委員長から『「自立し・自律した市民として活動することの必要性など」についての講演構想について』という課題を出す予定になっている。

(委員長)

今議論した通りなのだが、時期の関係で先に提出させてもらった。今期の報告書にこの提案をしたい思いがあったので、研修会で様々な意見を聞いてみたい。ラウンドテーブルについては、全国大会のような形も考えたが、今回は従来どおりの形になる。

(委員)

ラウンドテーブルも、自己紹介も兼ねて 5 分程度で話せばいいのだが、20 分くらい喋る人や、事例発表の話が延々と長かったり、人が話している途中で発言したりする人がいる。人の意見を批判しない、自分の日ごろの活動を紹介すれば大丈夫。

(事務局)

委員長の提案に関しては、実施するとなれば生涯学習審議会が主催となり、事務局が場所の確保やチラシ配布などの広報・受付を担当することになるだろうが、体制の問題で今後調整が必要になる。また、多くても年間で 3 回程度になるだろう。

3. その他

➤ 平成 29 年宇治市成人式について

(事務局)

平成 29 年 1 月 9 日(月・祝)文化センターにて開催。第 1 部式典と、公募で集まった 7 名の新成人から成る実行委員会による第 2 部特別企画が行われる。

➤ 宇治市ジュニア文化賞等及び宇治市スポーツ賞について

(事務局)

第7期宇治市生涯学習審議会 会議録

平成28年1月1日～12月31日の活動が対象。現在両賞の募集をしている。平成29年1月31日（火）に選考委員会を開催し、3月1日の市制施行記念日にて表彰される。

➤ 第24回市民まなびの集い「宇治まなびんぐ2017」の開催について

（事務局）

平成29年2月11日（土）、12日（日）生涯学習センターにて開催される。41団体、44コーナー、初出展は3団体となる。うち、人材バンク登録者・団体は6件である。

➤ 第33回宇治川マラソン大会について

（事務局）

平成29年2月26日（日）京都府立山城総合運動公園（太陽が丘）出発で開催される。

➤ 平成28年度第2回やましろ未来っ子まなび・体験活動サポーター研修会について

（事務局）

平成29年1月26日（木）山城教育局で開催される。

• 最後に

（委員長）

「社教情報」誌に添付される払込書についてだが、全国大会開催の資金不足のための寄付のお願いとなっている。様々な考え方があると思うので、判断は各自でお願いしたい。

（委員長職務代理）

本日は、今期の報告書に向けての宿題をいただいた。正月をはさんでの作成となるが、各自で発表のまとめをお願いしたい。

<次回の会議について>

平成29年2月14日（火）午後2時から 生涯学習センターにて